

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	中央ペーパーロジ(株) 小牧物流センター	階数	地下0階地上2階	
建設地	愛知県小牧市小針二丁目403番 他19筆	構造	S造	
用途地域	指定なし	平均居住人員	50 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026年3月 予定	評価の実施日	2025年2月14日	
敷地面積	14,335 m ²	作成者	浅井 康彦	
建築面積	8,426 m ²	確認日	2025年2月14日	
延床面積	8,896 m ²	確認者	今村 崇	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.4 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ 100% 77% 77% 77% (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.4	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4	Q のスコア= 2.8
LR 環境負荷低減性			
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4	LR のスコア= 3.7

3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 3.9	③敷地内の緑化 2.0 外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 26.9 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %	
②資源の有効活用 3.2	④地域材の活用 1.0 ＜外装材に使用した地域性のある材料＞ なし ＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞ なし	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
中央ペーパーロジ(株) 小牧物流センター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
	重点項目																評価点
Q 建築物の環境品質																	2.8
Q1 室内環境																	
1 音環境																	
1.1 室内騒音レベル																	
1.2 遮音																	
1 開口部遮音性能																	
2 界壁遮音性能																	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																	
1.3 吸音																	
2 温熱環境																	
2.1 室温制御																	
1 室温																	
2 外皮性能																	
3 ゾーン別制御性																	
2.2 湿度制御																	
2.3 空調方式																	
3 光・視環境																	
3.1 昼光利用																	
1 昼光率																	
2 方位別開口																	
3 昼光利用設備																	
3.2 グレア対策																	
1 昼光制御																	
3.3 照度																	
3.4 照明制御																	
4 空気質環境																	
4.1 発生源対策																	
1 化学汚染物質																	
4.2 換気																	
1 換気量																	
2 自然換気性能																	
3 取り入れ外気への配慮																	
4.3 運用管理																	
1 CO ₂ の監視																	
2 喫煙の制御																	
Q2 サービス性能																	3.4
1 機能性																	
1.1 機能性・使いやすさ																	
1 広さ・収納性																	
2 高度情報通信設備対応																	
3 バリアフリー計画			独自														
1.2 心理性・快適性																	
1 広さ感・景観 (天井高)																	
2 リフレッシュスペース																	
3 内装計画																	
1.3 維持管理																	
1 維持管理に配慮した設計																	
2 維持管理用機能の確保																	
2 耐用性・信頼性																	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振																	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																	
2 免震・制震・制振性能																	
2.2 部品・部材の耐用年数																	
1 躯体材料の耐用年数																	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②														
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																	
6 主要設備機器の更新必要間隔																	
2.4 信頼性																	
1 空調・換気設備																	
2 給排水・衛生設備																	
3 電気設備																	
4 機械・配管支持方法																	
5 通信・情報設備																	

3 対応性・更新性			0.4	4.0	0.48	-	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			0.3	4.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				4.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31				
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38				
1 空調配管の更新性				3.0	0.17				
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11				
4 通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11				
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			独自③	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.63	3.0	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.52	3.0	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			② 独自	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			② 独自	-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			② 独自	3.0	1.0	0.20	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			② 独自	3.0	3.0	0.05	-	-	
S達かつOAフロアにより、躯体と仕上げ材が容易に分別可能+内装材と設備が継続せず容易に分別可能				3.0	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	3.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率77%	-	3.9	0.33	-	3.9
2 地域環境への配慮					0.3	3.5	0.33	-	3.5
2.1 大気汚染防止					-	5.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制			独自		-	4.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいも版手引き

中央ペーパーロジ(株) 小牧物流センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	3.2	
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19		
③ 敷地内の緑化					2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:26.9%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 中央ペーパーロジ(株) 小牧物流センター

計画上の配慮事項	
総合	環境配慮の為、省エネ機器の採用、緑地の整備を行った。
Q1 室内環境	・F☆☆☆☆建材を積極的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染の回避に努めた。
Q2 サービス性能	・OAフロアやフリーフロア、二重天井、空配管等を採用し、構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができるよう配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	・緑地を設け、景観性に配慮した。
LR1 エネルギー	・高断熱、高効率設備を採用し省エネルギーに努めた。
LR2 資源・マテリアル	・S造かつOAフロアにより、躯体と仕上げ材が容易に分別可能＋内装材と設備が錯綜せず容易に分別可能。
LR3 敷地外環境	・敷地境界からの後退距離を十分にとることで、建物後流域での風の回復促進に努めた。 ・緑地を設け、地表面の温度上昇の抑制に努めた。 ・駐輪場、その他駐車スペースを敷地内に適切量確保。
その他	特になし